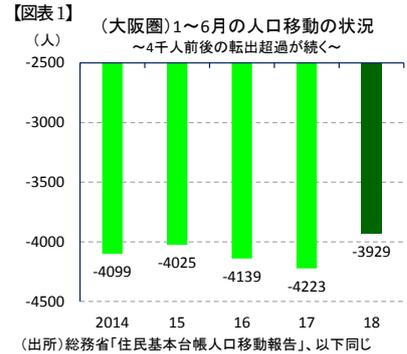


ショートコメント vol.117 (2018年8月24日)

テーマ：大阪圏の人口移動に明るい動き
～主に西日本からの転入が増加～

●直近の人口移動の概況

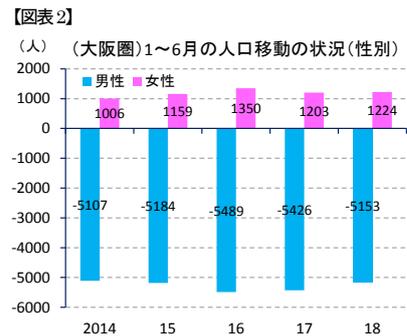
総務省の住民基本台帳人口移動報告によると、今年1～6月の大阪圏（大阪、京都、兵庫、奈良）の人口移動は、累計で3,929人の転出超過となっている。転出が転入を上回る傾向に変わりはないものの、その規模はここ5年で最も小さく、決して悪い動きではない（図表1）。なお、東京圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）も1～6月の人口移動の状況は良く、114,277人の転入超過と9年ぶりに11万人台を記録している。



●性別にみた人口移動の状況

大阪圏の今年1～6月の動きについて、まず男女別の傾向をみると、近年と大きな違いはみられない。

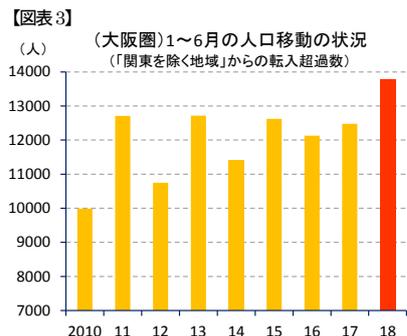
男性は5,153人の転出超過、女性は1,224人の転入超過と、ともにここ5年のトレンドに沿った動きとなっている（図表2）。図表のとおり、男性は出て行く方が多いのに対し、女性は入ってくる方が多い点が、関西の特徴である。通年ベースでは女性も転出超過となるが、3、4月の就職のタイミングに転入が集中する関係で、1～6月でみれば転入超過となる。



●関東以外からの転入超過数が拡大

一方、大阪圏と各地域との人口移動について、「対関東」と「関東を除く地域」との動きをみると、特に目を引くのは、関東を除く地域との転出入の状況である（図表3）。転入超過の規模が拡大しており、2010年以降の推移をみても、最大の規模となっている。

この動きを支えているのは、主に西日本（関西以西）からの転入であり、中国や四国、九州からの増加が大半を占めている。例えば、2017年の通年ベースでみると、関東以外からの転入超過分のうち、中国、四国、九州の占める比率は7割を超える。



●通年ベースでの見通し

人口移動の全国的なトレンドについては、やはり関東方面への集中が目立つが、西日本に対しては関西の吸引力も高まっており、その動きは右上がりのトレンドを描いている。

西日本から大阪圏への転入は、通年でみると3、4月の就職のタイミングに集中しているが、近年はそれ以外の月も転入超過となっている。関西にとっては心強い動きであり、今年はどこまで伸びるかに注目が集まる。仮に1～6月の堅調なトレンドが維持できれば、通年での大阪圏の転出超過の規模も縮小に向かう。このところは8～9千人の減少が続いていたが、場合によっては、5年ぶりに8千人を下回る可能性もあろう。

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。